

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和3年10月～12月実績

令和4年1月～3月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的

この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法

経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区

あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数

165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数

165企業（回答率100％）
6. 調査対象期間

令和3年10～12月期実績及び令和4年1～3月期見通し
7. 調査時点

令和3年11月15日（月）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率（％）
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

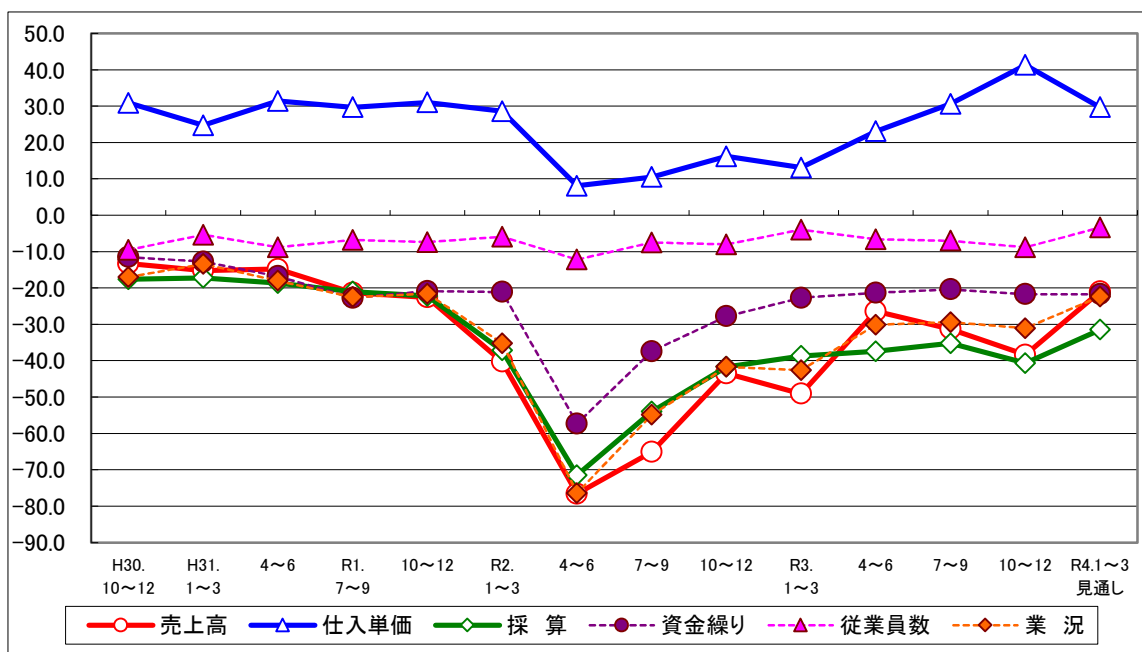
DI（数式）＝（上昇企業数－低下企業数）÷ 回答企業数 × 100

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 所長 南保 勝 氏

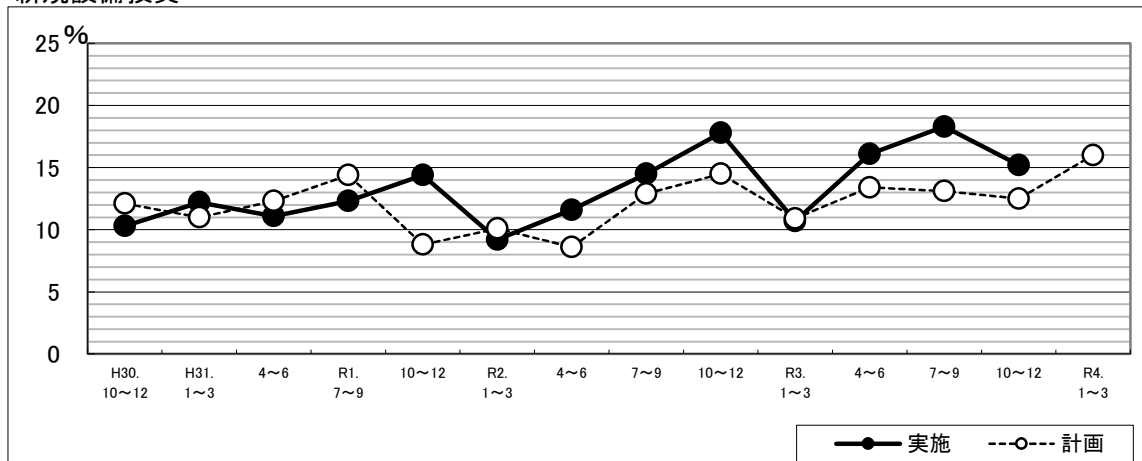
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

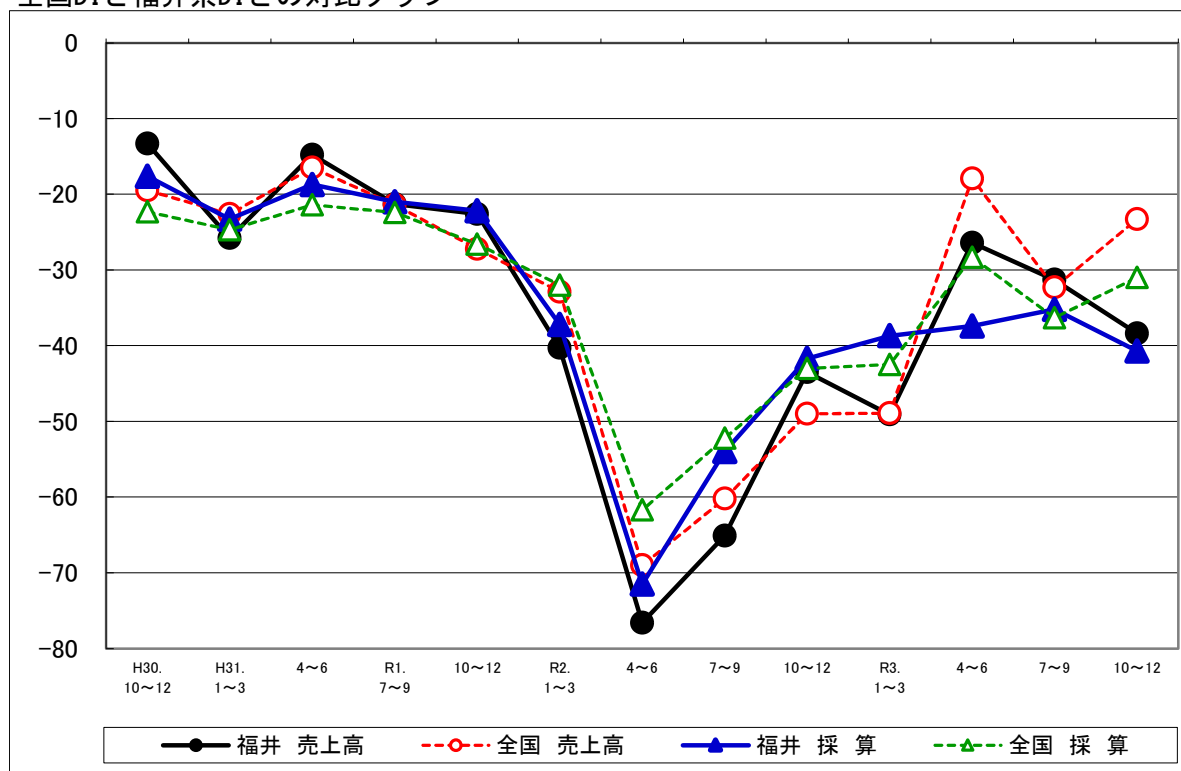
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3見通し	▲ 21.0	29.7	▲ 31.5	▲ 21.7	▲ 3.4	▲ 22.4



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R3年10－12月期の福井県経済を概観すると、需要面では秋口以降ワクチン接種の進捗と防疫措置の段階的緩和により小売店を中心に持ち直しの動きが強まったほか、供給面でも、原材料高、部品不足、特に半導体不足などを背景として業種・規模による操業度合いのバラツキが見られたものの全体としては持ち直している。参考までに企業マインドを見ると福井財務事務所発表の10～12月期の県内法人企業景気予測調査では、景況判断指数（BSI）がプラス12.1となり2004年の調査開始以来、最高値を記録するなど、年末にかけ製造業、非製造業ともに改善が進むことを裏付けている。

ただ、今期（R3年10－12月期）の景況調査をみると全体では景況感を示すDI値6項目全てで悪化傾向を示しており実態経済と企業マインドの間で景況感に対する思いに格差が見られた。項目ごとのDI値をみると売上高が前期▲31.3→今期▲38.4へ、仕入単価（逆指数）が30.6→41.3へ、採算が前期▲35.2→今期▲40.7へ、資金繰りが前期▲20.4→今期▲21.7へ、従業員数が前期▲7.0→今期▲8.8へ、業況が前期▲29.4→今期▲31.1へと悪化している。また、先行き（R4年1－3月期）については、6項目中、資金繰りの横這いを除く5項目で改善予測となっている。

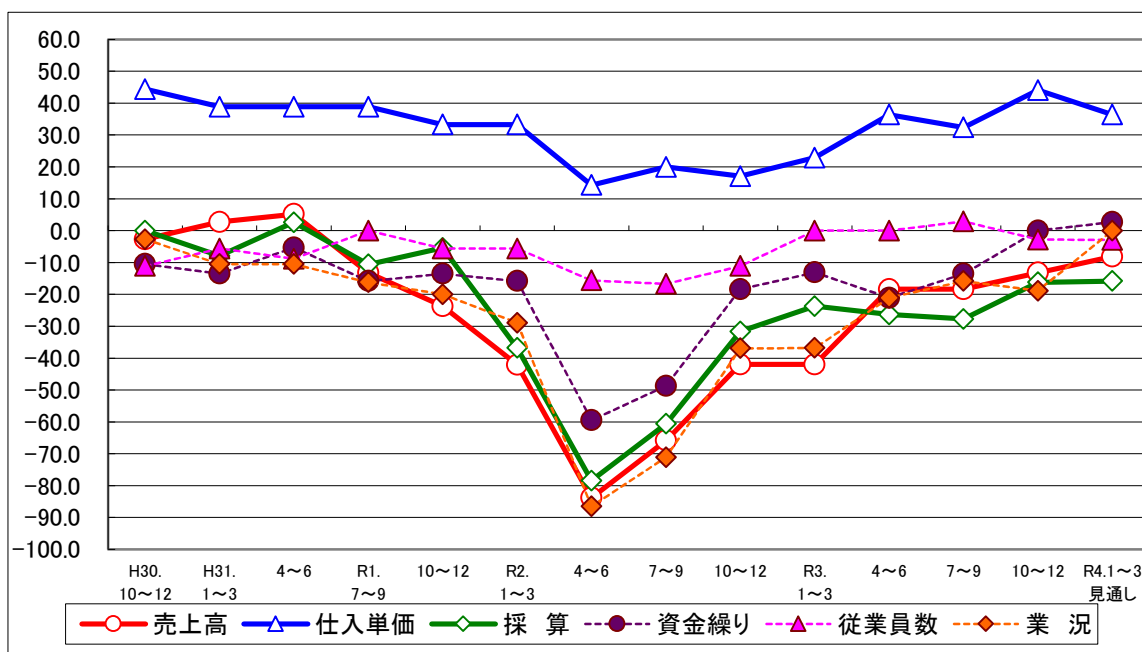
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国が売上高、採算ともに改善される中、福井県は両項目とも低下しており、全国に比べ厳しい経営環境であることがうかがえる。

そのほか、今期の新規設備投資については設備投資を計画している企業ウエイト12.5%に対し実施した企業ウエイト13.4%と微増したほか、先行き（R4年1－3月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが15.4%と、今期を上回る投資マインドが期待される。

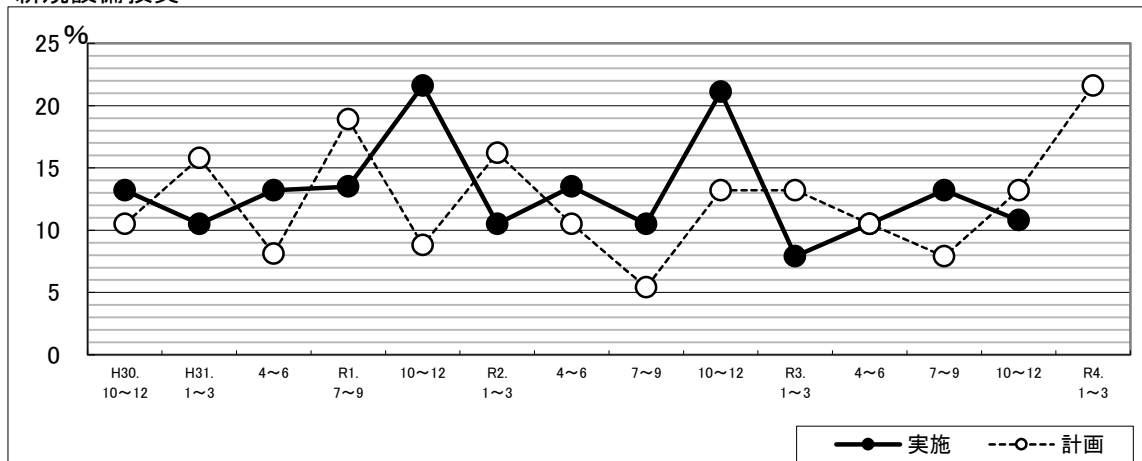
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

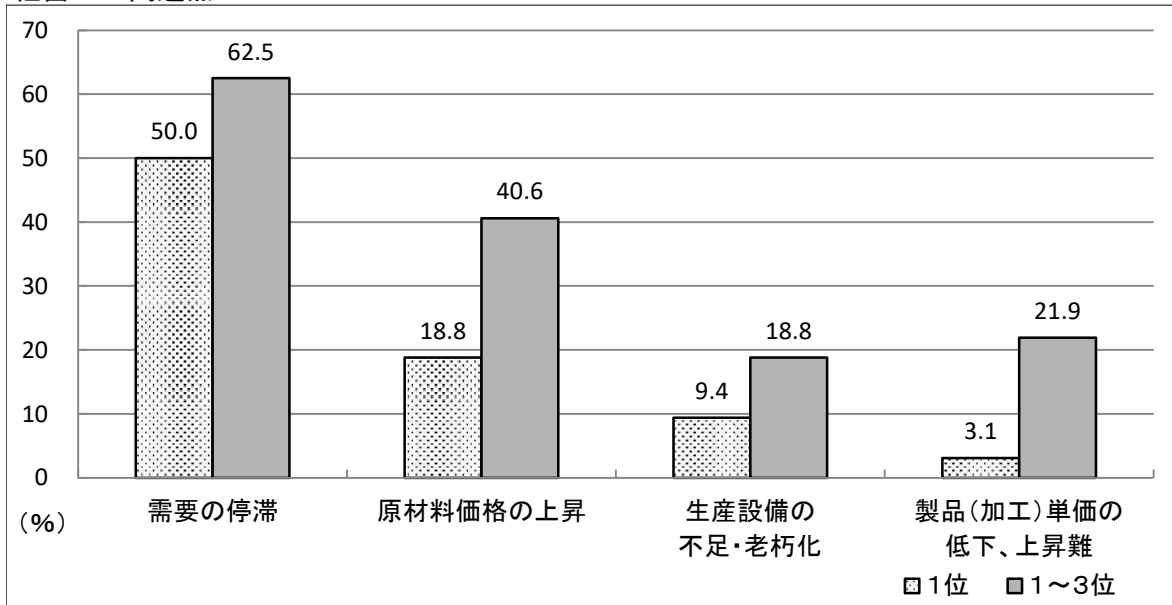
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3見通し	▲ 8.1	36.4	▲ 15.8	2.7	▲ 2.9	0.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・コロナの影響が継続しており、現在でも引き合い、受注ともに低下しており、改善の見通しが見られない。
- ・県外イベントや展示会、即売会が中止になっているため顧客獲得ができない。
- ・ワクチンの普及率が上がったおかげで昨年より引き合いが増加しているように思うがまだまだイベントや冠婚葬祭等が縮小されておりファッション業界の需要は停滞している。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業は総じて衣料品が苦戦したものの非衣料が持ち直し全体では横ばいとなった。眼鏡枠は年初まで厳しい環境が続いたものの年央以降は持ち直した。一方、機械工業は電子部品・デバイスで年を通じてスマートフォン需要を中心に順調な生産動向を維持。輸送機械や汎用機械は部品供給の停滞や半導体不足の影響を受け7月以降落ち込みが激しいが年末にかけては回復が期待されている。

こうした中、今期（R3年10－12月期）の景況調査をみると全体では景況感を示すDI値6項目中、売上高、採算、資金繰りの3項目で改善、仕入単価（逆指数）、従業員数、業況の3項目で悪化となり、甲乙つけがたい状況であることがうかがえる。各項目のDI値をみると売上高が前期▲18.4→今期▲13.2、仕入単価（逆指数）が前期32.4→今期44.1、採算が前期▲27.7→今期▲16.2、資金繰りが前期▲13.5→今期0.0、従業員数が前期2.9→今期▲2.8、業況が前期▲15.8→今期▲18.9となっている。また、先行き（R4年1－3月期）については、従業員数を除く5項目が改善予測となっており、来期は若干の期待が持てる結果となっている。

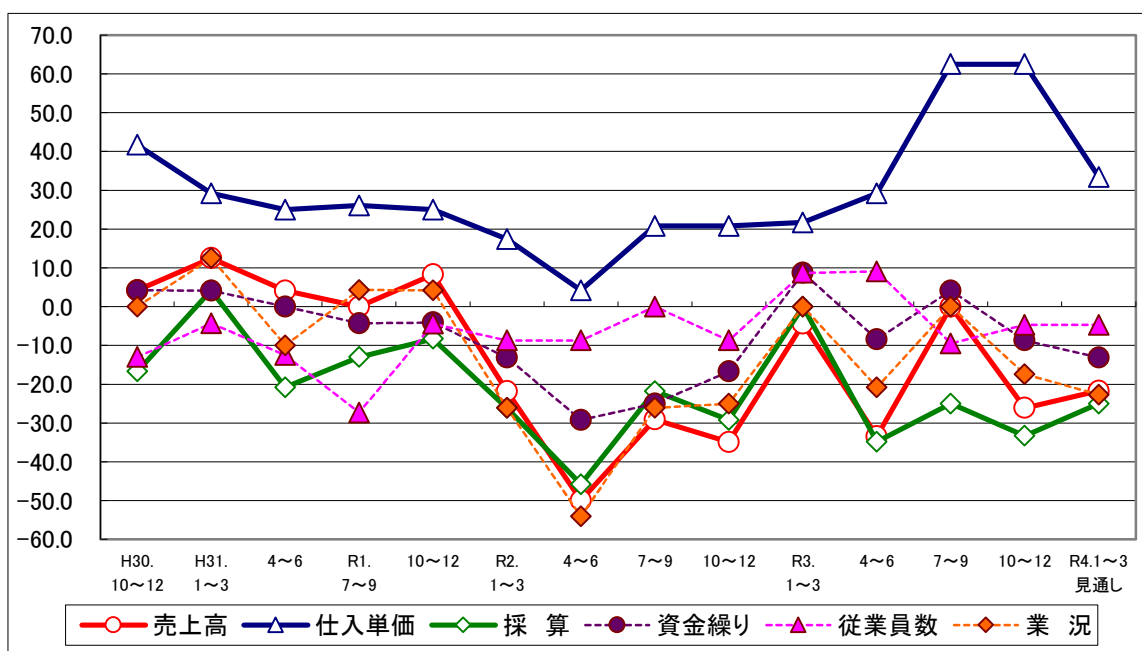
一方、新規設備投資の状況については、計画の13.2%に対し実施が10.8%となり、低調な動きとなった。ただ、先行き（R4年1－3月期）については、何らかの投資を予定する企業が21.6%を占め、投資マインドの回復が期待できる。

最後に、経営上の問題点については1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く50.0%（1位～3位までに挙げた企業62.5%）と半数を占めた。個別の見解としては「コロナの影響が継続しており、現在でも引き合い、受注ともに低下しており、改善の見通しが見られない」、「県外イベントや展示会、即売会が中止になっているため顧客獲得ができない」など、悲観的な見解が多くみられた。

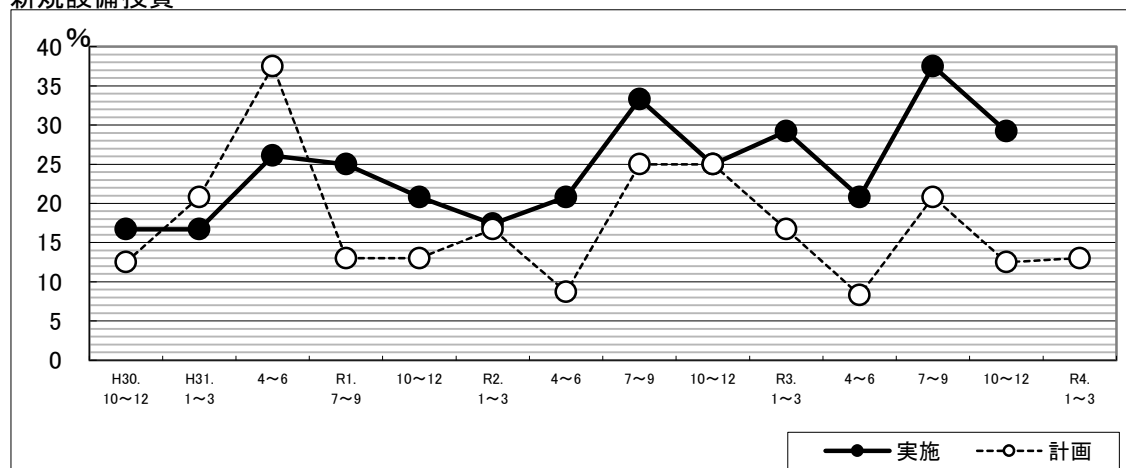
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

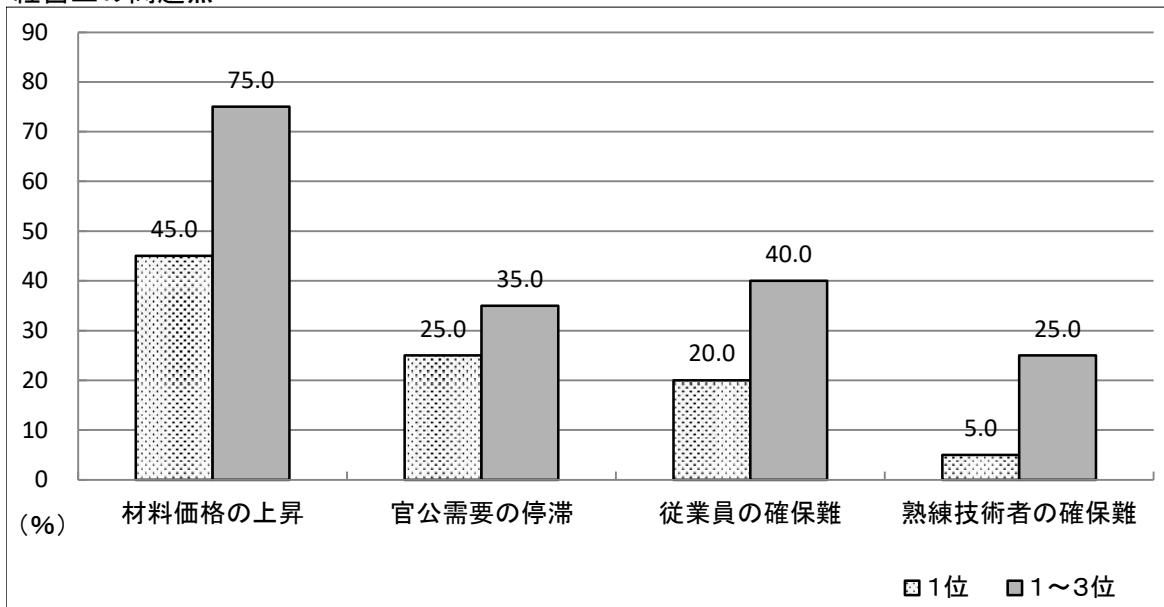
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3見通し	▲ 21.7	33.4	▲ 25.0	▲ 13.1	▲ 4.7	▲ 22.7



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・コロナの影響で公共工事の入札物件が減少。災害関連の工事はあるが、採算が厳しい物件が多い。
- ・また、緊急工事のため施工より契約が後となり、入金の見込みが立たないので資金繰りに影響している。
- ・建築資材の高騰が続き、品物が入ってこない。ガソリン等の値段も高く採算がとれない工事もある。
- ・毎回人手不足に悩んでいるが改善されない。材料・燃料の価格上昇が続くと来期の見通しは厳しいと思う。

建設業の景況

福井県内におけるR3年度（R3年4～11月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,252億23百万円の前年同期比19.0%の減少、発注件数は同2,527件の同10.1%の減少となっている。これを主な発注者別でみると、市町村関連工事が330億89百万円の前年同期比10.4%減、福井県関連工事が293億80百万円の同15.0%減となっている。一方、住宅投資については、R3年4～10月期の累計で、前年同期比41.4%増の3,336戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比12.7%増の1,617戸、貸家が同69.1%増の1,182戸となっている。ただ住宅業界では引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の着工戸数の伸びに影響してくることが懸念されている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち従業員数のみが改善、残る5項目で横這い或いは悪化傾向を示した。各項目別のDI値をみると、売上高が前期0.0→今期▲26.1、仕入単価（逆指数）が前期62.5→今期62.5、採算が前期▲25.0→今期▲33.3、資金繰りが前期4.1→今期▲8.7、従業員数が前期▲9.5→今期▲4.7、業況が前期0.0→今期▲17.4となっている。また、先行き（R4年1～4月期）については、改善予測が3項目となり、多少の持ち直しが期待できる。

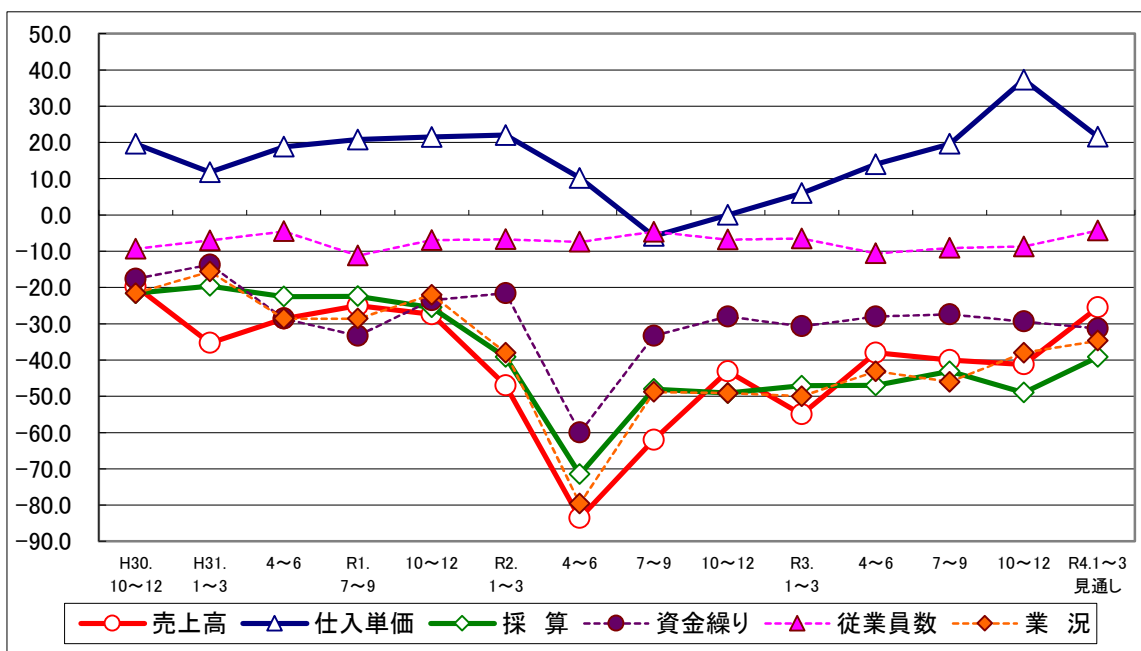
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業12.5%に対し実施した企業が29.2%となり、投資マインドは順調な動きを示した。また、先行き（R4年1～3月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様の13.0%にとどまり、やや停滞感が予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「材料価格の上昇」で最も多く45.0%（1位～3位に挙げた企業75.0%）を占めた。次いで、「官公需要の停滞」（1位に挙げた企業25.0%、1位～3位に挙げた企業35.0%）が続いている。その他の見解としては、「コロナの影響で公共工事の入札物件が減少。災害関連の工事はあるが、採算が厳しい物件が多い」、「建築資材の高騰が続き、品物が入ってこない。ガソリン等の値段も高く採算がとれない工事もある」など、悲観的な声が聞かれている。

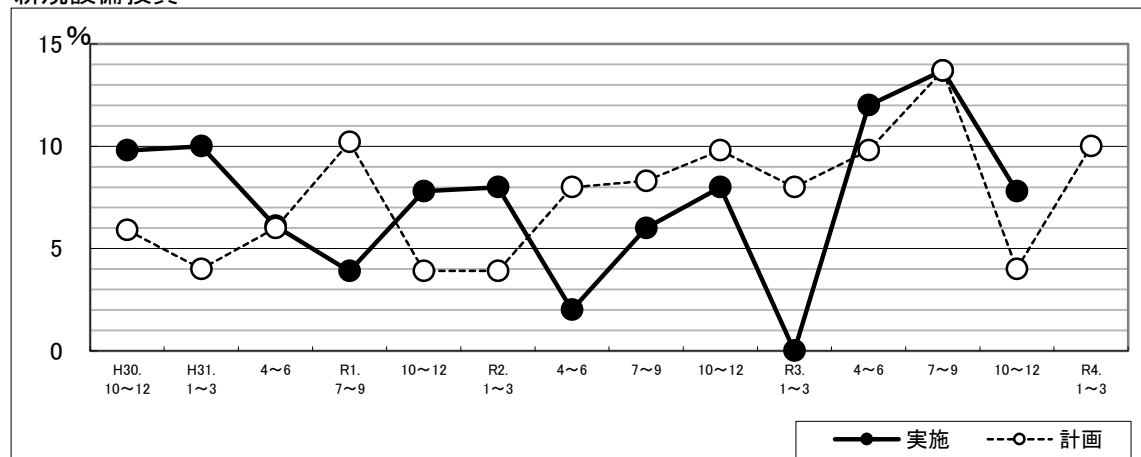
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

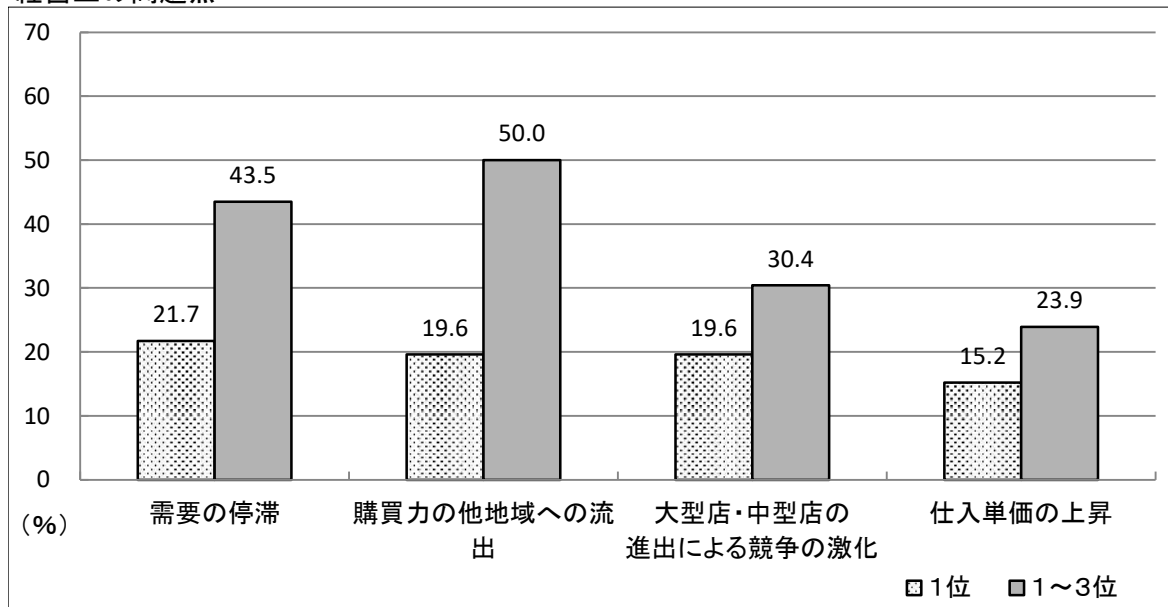
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3見通し	▲ 25.5	21.6	▲ 39.2	▲ 31.3	▲ 4.3	▲ 34.7



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・低調な業況のまま推移している。好転するような材料が見当たらない。年末年始に期待したい。
- ・やや上向きの景気上昇だが、コロナで品薄、入荷待ちと今までなかった初めての状況。今後の仕入れ、販売を見直すことになりそう。状況を早く把握する必要がある。
- ・仕入単価が低下しており、粗利が低下している。

小売業の景況

最近の小売商況を業態別にみると、総じて堅調を持続。食品スーパー、ドラッグストアは、堅調に推移。前年、精彩を欠いたコンビニエンスストアも、堅調な飲食品に支えられ、持ち直し傾向を強めている。家電大型専門店販売は、商品により品薄状態にあるものの、テレビや白物家電等に動きが見られたことから順調に推移。一方、ホームセンター販売は、巣ごもり需要の一服感などから春先以降は増勢が鈍化している。参考までに、近畿経済産業局が公表する10月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）をみると、衣料品、身の回り品は不冴えながら、飲食料品や家庭用電気機械器具等の売れ行きがよいことなどから、前年同月比で0.4%増加し、66億5百万円と4ヶ月連続の増加となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲40.0→今期▲41.2、仕入単価（逆指数）が前期19.6→今期37.3、採算が前期▲43.1→今期▲49.0、資金繰りが前期▲27.4→今期▲29.4、従業員数が前期▲9.1→▲8.7、業況が前期▲46.0→今期▲38.0となっている。先行き（R4年1～3月期）については、資金繰りを除いて5項目で改善予測が立てられている。

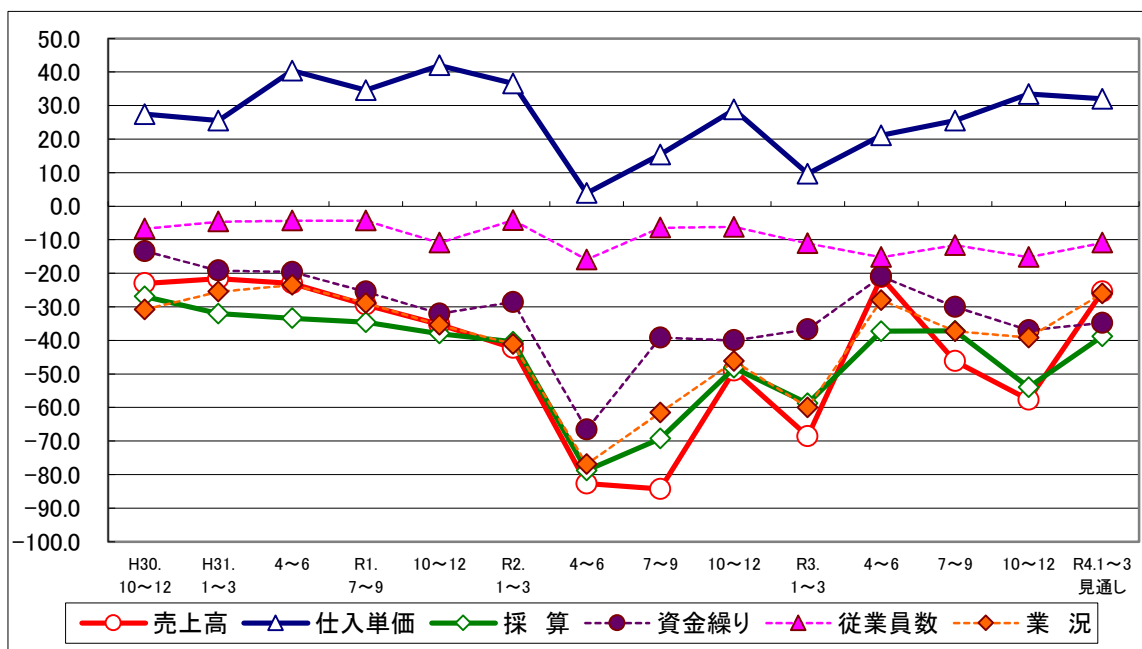
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の4.0%に対し実施は7.8%となり、実施が計画を上回った。先行き（R4年1～3月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが10.0%となり、投資マインドがやや上向くことが期待される。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト21.7%、1位～3位までに挙げた企業43.5%となった。その他の見解としては、「やや上向きの景気上昇だが、コロナで品薄、入荷待ちと今までなかった初めての状況。今後の仕入れ、販売を見直すことになりそう。状況を早く把握する必要がある」、「低調な業況のまま推移している」など、依然、コロナ禍で厳しい経営環境が読み取れた。

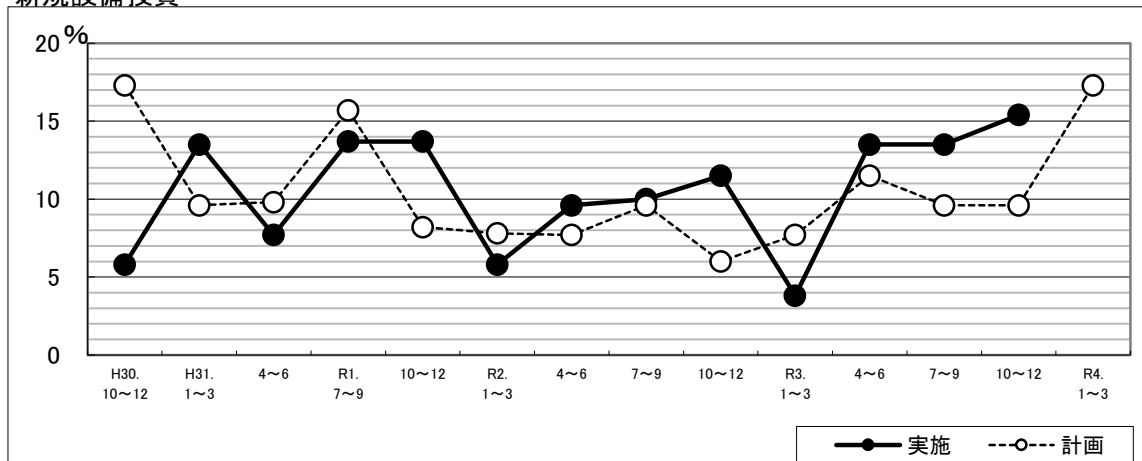
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

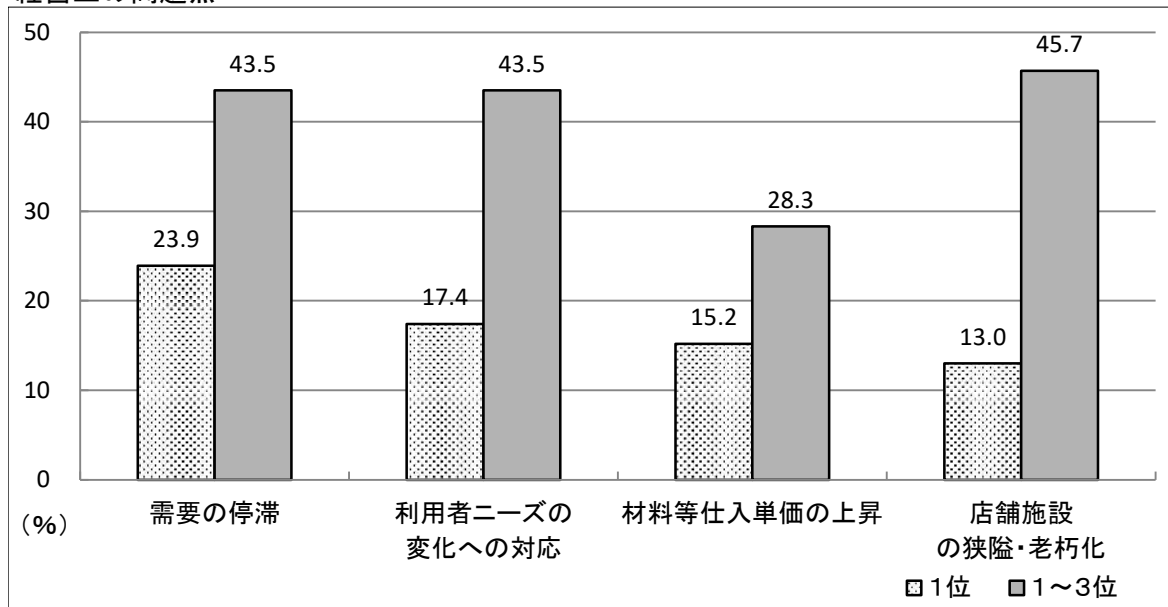
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3見通し	▲ 25.5	32.0	▲ 38.8	▲ 34.8	▲ 10.9	▲ 26.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・コロナ感染も終息しつつあると共に県の支援で県内のお客様も戻りつつある。燃料やカニの既設の材料の高騰、従業員不足など懸念がある。
- ・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきて、多少売り上げが伸びてきた。
- ・人口の減少、コロナによる人の移動の減少、燃料の高騰他問題が多々ある。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」によると飲食店、飲食サービス業が営業時間や酒類提供再開などの制約緩和に伴い客足が増加したことや宿泊業が行動制限の緩和を背景とした国内旅行の増加などからホテル、旅館ともに上昇。その結果、全国におけるR3年10月のサービス産業活動指数は、全体で97.4の前月比1.5%と、2ヶ月連続の上昇となった。内訳をみると、対事業所サービスが0.4%上昇の98.1、対個人サービスが2.0%上昇の95.8となっている。これにより10月時点の基調判断は「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの兆し」に引き上げられ、回復基調をみせている。

こうした中、今回の景況調査をみるとDI値6項目全てが悪化し全国の状況とは異なる結果となっている。ちなみに、項目別の指数を見ると売上高が前期▲46.2→今期▲57.7、仕入単価（逆指数）が前期▲30.0→今期▲37.0、採算が前期▲37.2→今期▲54.0、資金繰りが前期▲30.0→今期▲37.0、従業員数が前期▲11.6→今期▲15.2、業況が前期▲37.3→今期▲39.2となっている。また、先行き（R4年1～3月期）については6項目全てが改善予測となっており県内サービス業では経営環境の上昇を期待したい。

一方、新規設備投資については計画9.6%に対し実施が15.4%となり、堅調な投資動向となった。先行き（R4年1～3月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが17.3%となっており、投資マインドの上昇が期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト23.9%、1位～3位までに挙げた企業43.5%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解としては、「コロナ感染も終息しつつあると共に県の支援で県内のお客様も戻りつつある」、「新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきて、多少売り上げが伸びてきた」など、明るいコメントも散見された。

全国・福井景気動向 令和3年10月～12月（対前年同期比：DI値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 23.3	48.4	▲ 31.0	▲ 18.4	▲ 4.8	▲ 25.4
	製造業						
	DI値	▲ 8.3	61.0	▲ 20.3	▲ 13.1	▲ 5.3	▲ 13.7
	建設業						
	DI値	▲ 17.5	67.2	▲ 24.4	▲ 11.4	▲ 4.8	▲ 14.8
	小売業						
	DI値	▲ 34.4	37.6	▲ 41.0	▲ 25.3	▲ 2.8	▲ 38.3
	サービス業						
	DI値	▲ 26.3	42.1	▲ 32.2	▲ 19.1	▲ 5.8	▲ 26.5
福井	全体						
	DI値	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
	製造業						
	DI値	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
	建設業						
	DI値	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
	小売業						
	DI値	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
	サービス業						
	DI値	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

